

(参考資料 5-1)

重症度・看護必要度に係る評価票

		(配点)		
A モニタリング及び処置等		0点	1点	2点
1	創傷処置	なし	あり	
2	蘇生術の施行	なし	あり	
3	血圧測定	0回	1~10回	11回以上
4	時間尿測定	なし	あり	
5	呼吸ケア	なし	あり	
6	点滴ライン同時3本以上	なし	あり	
7	心電図モニター	なし	あり	
8	輸液ポンプの使用	なし	あり	
9	動脈圧測定(動脈ライン)	なし	あり	
10	シリンジポンプの使用	なし	あり	
11	中心静脈圧測定(中心静脈ライン)	なし	あり	
12	人工呼吸器の装着	なし	あり	
13	輸血や血液製剤の使用	なし	あり	
14	肺動脈圧測定(スワングアンツカテーテル)	なし	あり	
15	特殊な治療法等(CHDF, IABP, PCPS, 補助人工心臓, ICP測定等)	なし	あり	
		A得点		

B 患者の状況等		0点	1点	2点
16	床上安静の指示	なし	あり	
17	どちらかの手を胸元まで持ち上げられる	できる	できない	
18	寝返り	できる	何かにつかまればできる	できない
19	起き上がり	できる	できない	
20	座位保持	できる	支えがあればできる	できない
21	移乗	できる	見守り・一部介助が必要	できない
22	移乗方法(主要なもの1つ)	自力歩行・つかまり足ま	補助を要する移乗(脚袋を含む)	移動なし
23	口唇清潔	できる	できない	
24	食事摂取	介助なし	一部介助	全介助
25	衣服の着脱	介助なし	一部介助	全介助
26	他者への意思の伝達	できる	できる時とできない時がある	できない
27	診察・療養上の指示が通じる	はい	いいえ	
28	危険行動への対応	ない	ある	
		B得点		

注) 重症度・看護必要度に係る評価票の記入にあたっては、「重症度・看護必要度に係る評価票詳細の手引き」に基づき行うこと。
 Aについては、評価日において実施されたモニタリング及び処置等の合計点数を記載する。
 Bについては、評価日の状況に基づき判断した点数を合計して記載する。
 <重症度・看護必要度に係る基準>
 モニタリング及び処置等に係る得点(A得点)が3点以上、または患者の状況等に係る得点(B得点)が7点以上。

Dendrogram using Average Linkage (Between Groups)

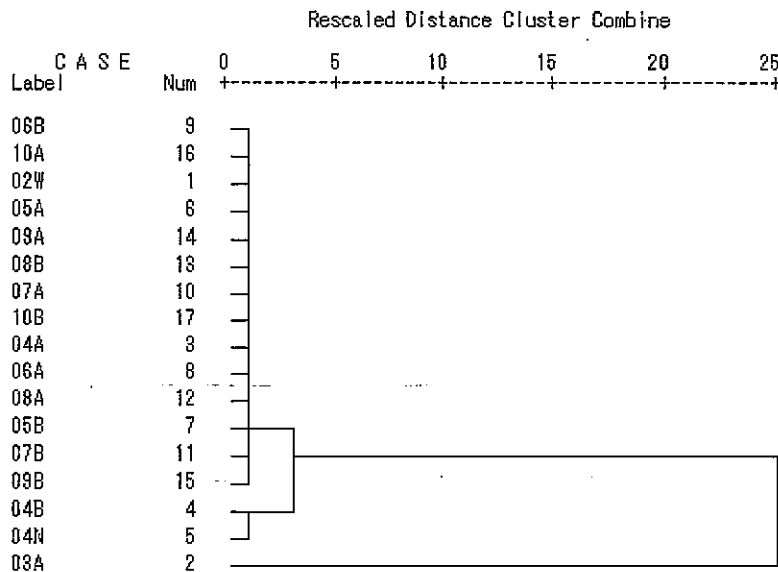


表 A得点に基づく病棟の分類(クラスター分析)

表 各病棟のA得点

病棟コード	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14	Q15	A得点
06B	0.154	0.000	1.115	0.115	0.000	0.000	0.038	0.038	0.000	0.038	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	1.500
10A	0.130	0.000	0.913	0.087	0.043	0.000	0.087	0.000	0.000	0.043	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	1.304
02W	0.077	0.000	1.000	0.077	0.154	0.000	0.038	0.077	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	1.423
05A	0.156	0.000	1.000	0.089	0.089	0.000	0.022	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.022	0.000	0.000	1.378
09A	0.143	0.000	0.952	0.071	0.024	0.000	0.024	0.000	0.000	0.024	0.000	0.000	0.024	0.000	0.000	1.262
08B	0.100	0.000	1.025	0.000	0.050	0.000	0.025	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.025	0.000	0.000	1.225
07A	0.375	0.000	1.000	0.250	0.100	0.025	0.100	0.025	0.000	0.025	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	1.900
10B	0.382	0.000	1.000	0.147	0.059	0.000	0.029	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	1.618
04A	0.270	0.000	1.027	0.081	0.216	0.000	0.108	0.027	0.000	0.027	0.027	0.000	0.000	0.000	0.000	1.784
06A	0.529	0.000	0.941	0.000	0.324	0.029	0.059	0.029	0.000	0.029	0.000	0.000	0.029	0.000	0.000	1.971
08A	0.200	0.000	1.200	0.000	0.167	0.000	0.533	0.133	0.000	0.000	0.000	0.000	0.033	0.000	0.000	2.267
05B	0.515	0.000	1.000	0.212	0.273	0.000	0.182	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.030	0.000	0.030	2.242
07B	0.375	0.000	0.925	0.150	0.125	0.050	0.100	0.025	0.025	0.050	0.000	0.000	0.025	0.000	0.025	1.875
09B	0.227	0.000	0.977	0.045	0.091	0.091	0.159	0.068	0.000	0.068	0.023	0.000	0.114	0.000	0.000	1.864
04B	0.038	0.000	1.000	0.000	0.192	0.077	0.500	0.462	0.000	0.462	0.115	0.231	0.000	0.000	0.000	3.077
04N	0.000	0.000	1.000	0.000	0.429	0.000	1.000	0.000	0.000	0.714	0.143	0.429	0.000	0.000	0.000	3.714
03A	0.833	0.000	2.000	1.000	1.000	0.500	1.000	1.000	0.667	0.833	0.667	0.667	0.167	0.000	0.000	10.333
全施設平均	0.213	0.009	0.881	0.117	0.158	0.047	0.142	0.109	0.013	0.045	0.021	0.023	0.023	0.002	0.007	1.811

Dendrogram using Average Linkage (Between Groups)

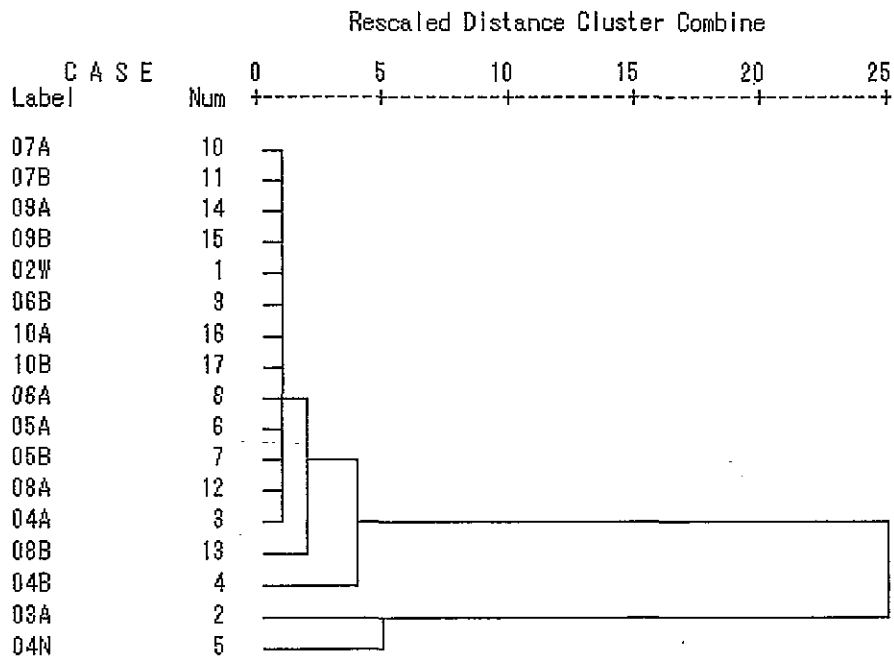


表 B得点に基づく病棟の分類(クラスター分析)

表 各病棟のB得点

病棟コード	Q16	Q17	Q18	Q19	Q20	Q21	Q22	Q23	Q24	Q25	Q26	Q27	Q28	B得点
07A	0.100	0.000	0.200	0.125	0.200	0.300	0.325	0.100	0.100	0.400	0.100	0.025	0.150	2.13
07B	0.125	0.000	0.150	0.125	0.200	0.275	0.275	0.075	0.175	0.350	0.025	0.025	0.075	1.88
09A	0.143	0.000	0.262	0.167	0.310	0.452	0.405	0.190	0.262	0.500	0.071	0.071	0.095	2.93
09B	0.182	0.000	0.227	0.136	0.205	0.364	0.432	0.091	0.295	0.364	0.045	0.045	0.068	2.45
02W	0.077	0.000	0.038	0.077	0.077	0.154	0.308	0.077	0.115	0.154	0.000	0.000	0.038	1.12
06B	0.077	0.000	0.154	0.115	0.231	0.346	0.577	0.115	0.000	0.346	0.000	0.000	0.000	1.96
10A	0.043	0.043	0.087	0.087	0.174	0.174	0.391	0.087	0.087	0.217	0.087	0.087	0.087	1.65
10B	0.118	0.059	0.176	0.059	0.118	0.235	0.176	0.059	0.235	0.294	0.088	0.029	0.118	1.76
06A	0.176	0.000	0.118	0.059	0.118	0.294	0.324	0.353	0.500	0.441	0.147	0.059	0.324	2.91
05A	0.200	0.044	0.489	0.244	0.578	0.578	0.489	0.289	0.311	0.667	0.156	0.067	0.111	4.22
05B	0.182	0.000	0.455	0.303	0.424	0.606	0.727	0.121	0.303	0.636	0.061	0.030	0.121	3.97
08A	0.133	0.067	0.333	0.300	0.433	0.667	0.800	0.467	0.233	0.633	0.200	0.200	0.067	4.53
04A	0.270	0.027	0.378	0.324	0.541	0.730	0.541	0.297	0.649	0.622	0.351	0.243	0.189	5.16
08B	0.100	0.075	0.200	0.150	0.350	0.625	0.625	0.400	0.250	0.525	0.200	0.075	0.775	4.35
04B	0.500	0.269	0.692	0.385	0.769	0.962	0.846	0.577	1.000	1.038	1.000	0.500	0.038	8.58
03A	0.167	0.833	1.833	1.000	1.667	2.000	1.833	1.000	1.333	1.833	1.667	0.833	0.500	16.50
04N	1.000	1.000	2.000	1.000	2.000	2.000	2.000	1.000	2.000	2.000	2.000	1.000	0.000	19.00
全施設平均	0.164	0.081	0.398	0.237	0.414	0.574	0.568	0.276	0.383	0.594	0.321	0.195	0.176	4.38

DPC に対応した病院情報システムのモデル事例の検討研究

看護度データによる看護ケア量の重みづけと看護ケアコストに関する研究

鹿児島大学医学部保健学科

宇都由美子

1. はじめに

わが国においては看護ケア量を測定するツールが確立していない。多くの看護現場で看護量測定の客観的な評価ツールの導入と、それにより得られたデータの活用方法を求めている。鹿児島大学の看護度分類は昭和 62 年より開発を進めてきており、約 17 年に及ぶ看護度分類の体系化の取り組みと、それに裏付けられた膨大なデータ蓄積を有している。これまでも多くの施設から見学や問い合わせをいただいていた。

看護ケア量測定を一般化するに当たっての課題は、測定されたデータの妥当性と信頼性、および測定の継続性を保証できることである。信頼性の確保については、直ちに完全無欠な評価ツールができるとは考えがたい。しかし、これまで取り組まれてきた多くの看護ケア量測定ツールの中から現状で最も信頼できる、あるいは複数の評価ツールを組み合わせることでより精度の高い評価ツールに創り上げるということも可能である。

次に、妥当性については、各医療機関で測定された看護ケア量に関するデータの精度について、果たして同一の選択基準で選択され、いわゆるアップコーディングに繋がるような判断が行われていないかという点を、各医療機関の当の看護職にいかにか納得してもらえるかである。したがって、測定された看護ケア量に関するデータをそのまま施設間で比較しても、同意と納得は得られないであろう。施設間を比較する場合単純な相対評価より、施設ごとの看護ケア量に関する絶対評価をある指標で表し、それを施設間で比較するなどなんらかの工夫が求められる。

さらに、入院中の全患者を対象として行う調査であるため、臨床看護現場の必要以上の負荷にならず、また、調査結果を現場にフィードバックできるものであることは、言うまでもないことである。

2. 看護量算定の方法

看護量算定の方法としては、古くからワークサンプリング法やタイムスタディ法がとられてきたが、実際に行われた看護量を明らかにすることはできても、適正人員は求められないという限界があった。Nursing Care Requirementに関する研究が進められ、患者を幾つかのカテゴリーに分類し、そのカテゴリーに属する患者が必要とする看護量を予め決めておくという方法が開発された。代表的なものとして、典型例評価として「看護度」、因子評価として「TNS」があげられる。

2-1. 看護度とは

厚生省看護制度検討委員会が患者ケアに肝関する評価尺度として基準化を図ったものである。看護度A：常時観察を必要とするもの、看護度B：継続的に観察を必要とするもの、看護度C：継続した観察は特に必要としない、という3段階に分かれている。しかし、評価基準が漠然としているため、主観的な判断が入りやすく、施設間だけでなく、同一施設においても客観的な評価が困難という指摘を受けている。

2-2. 看護度分類の鹿児島大学版

鹿児島大学では、看護度の測定ツールとしてのメリット、デメリット（限界）を評価し、客観的なデータ収集を行うために、独自の細分化を図った。

看護度分類の鹿児島大学版

誰が見ても誰が選んでも評価基準が同じになるように看護度を利用したprototype evaluation（典型例評価）

- I. 大分類＝観察の頻度 ■ A：常時観察を必要とする
- II. 中分類＝患者の特徴 ■ A22：手術患者
- III. 小分類＝検査・処置の状況
A2201：全身麻酔による手術後の要観察期（術後24時間）

看護度分類の鹿児島大学版

看護度大分類（A）と選択すると → 患者タイプ（特徴）へ展開し選択する

- 1) 重篤な患者
- 2) 手術患者
- 3) ハイリスク・治療の患者
- 4) 意識障害の高度な患者
- 5) ADL障害の高度な患者
- 6) 感覚器障害の高度な患者
- 7) 精神障害の高度な患者
- 8) 妊婦
- 9) 産婦及び褥婦
- 10) 未熟児及び新生児

→ 小分類へ

最終的に、330項目に細分化されている。

さらに、客観的な看護度データの収集に繋がるように、330項目に細分化した看護度について、4段階（患者状態、看護目標、処置・援助、看護援助）からなる定義づけを行った。

より客観的な看護度データを収集するために

A22手術患者

01. 全身麻酔による手術後の要観察期

1. 患者状態

- ・全身麻酔による影響下にあり全身の状態が抑制されている状態 ・意識混濁がある状態
- ・呼吸抑制がある状態 ・出血、浸出液が多い状態
- ・バイタルサインが不安定な状態
- ・知覚鈍麻がある状態 ・手術創の疼痛がある状態

2. 看護目標

- ・一刻も早く全身麻酔から離脱し、全身状態の回復を図る

3. 処置・援助

- ・呼吸：ベンチレーター、気管内挿管、気管切開、酸素吸入
- ・循環：輸血、持続点滴、各種モニタリング、動脈ライン
- ・消化器：胃チューブ
- ・出血：止血処置、各種ドレーン、包帯交換
- ・全身状態：、持続吸引、持続洗浄、排尿カテーテル、etc

4. 看護援助

- 1) 観察
 - ・呼吸：呼吸抑制、去痰困難、呼吸困難、肺雑音
 - ・循環：血圧変動、末梢循環不全、尿流出、不整脈
- 2) ケア
 - ・呼吸：吸引、ネブライザー、フロー、肺理学療法
 - ・循環：時間尿測定、動脈触知